

街かど gallery



四月
花だよりは、出不精の老いに、「さあ、おいで」と呼びかけてくれる。
桜を愛でながらの散策は、人との出会いもあり、リフレッシュ出来る。
そして、何よりの愉しみは、花見弁当である。
出不精の老いを連れ出す

八女川柳会
安達昇
花だより



今日の山柳

花だより
老いの心を
ノックする



黒木西小 二年
うめのえいり

いつもありがとう

おじいちゃんおばあちゃん、いつもかえりをまわってくれてありがとう。
おじいちゃん、いつも本をかけてくれてありがとう。
おばあちゃん、いつもパンをつくってくれてありがとう。
おじいちゃんおばあちゃん、これからもだに気をつけてりようをたのしんでね。
ありがとつてつたえたくて！
次は、のなかなつきさんを紹介します。

八女映像クラブ

楽しい仲間たち

会の名称は堅そうですが、ビデオを楽しむ者が集まった趣味の会と思って下さい。「ふるさとを記録することで時代を残す」のが役目だと思っています。この写真撮影の日は新しい映写機の試写会でした。次々と、箱から出された機器が手際よく何本ものケーブルで接続されていました。クラブは平成元年の設立、会員は中島一義会長以下8名。月1回の例会日には会員の作った作品を鑑賞して勉強します。新しいソフトや機器等の情報交換も欠かせません。日頃は各自テーマを決めて撮影に出かけます。帰ってから編集作業です。音響、ナレーション、字幕を入れて作品が完成です。手間、ヒマかかりますが充実した楽しい時間です。重たい機材をもって歩き回るので、頭と体の健康にも役立っています。92歳の北島さん（写真左から3人目）はクラブで一番元気です。多くの方がビデオ撮影されますがテレビに写すだけで終わっています。もう一工夫してナレーションや音楽を入れれば誰にでも立派な作品が作れます。今のテレビは色んな機能がついていますからテレビを今より何倍も活用することもできます。クラブでは市内のふれあいサロンやデイサービスセンター等で映写会をしています。希望があれば機材持参でボランティアで伺います。寅さんや釣りバカ等のポピュラー作品から、会員のオリジナル作品まで多数揃っています。お問い合わせは八女市社会福祉協議会 ☎23-0294 へどうぞ。

＜募集＞クラブではビデオ撮影に興味をお持ちの方の入会を大歓迎します。

一度気軽に例会をのぞいてみませんか。
お問い合わせは
室園睦雄 ☎22-5360
携帯090-4983-9469



どうぞ。お待ちしておりますよ～。



矢部川源流・杉の里の四季 ⑱

イチリンソウ(一輪草)「キンポウゲ科」

この花は葉が羽状に裂けるのが特徴、釈迦岳登山道の標高7～8百メートル付近の林の中で見られる日陰の花。花の色は正面から見ると白色、裏面から見ると淡いピンク色をしている。別名ウラベニイチゲ(裏紅一華)ともいう。この写真は背後からの木漏れ日を受けて、花びらの裏のピンク色が透けて見えている。

イチリンソウは、早春木々が芽吹く前の、太陽の光が十分に地面に届く間に成長し、花を咲かせる。そして、木々の葉が茂る頃には実を結び、あっという間に姿が見えなくなる。可憐な花だが、なにやら寂しげな感じの花である。
松尾 重根
(黒木町)



のな私を描いてみたいと思つて高齢者大学に入学しました。いざ筆をとつてみると、不安はつのも、手首はコチコチ、気持は焦るばかり。筆は思うように動かず、くぢけそうでした。しかしお稽古を重ねるごとに、友との輪も広がり、次第に面白くなつていきました。中島先生のご指導によって、不器用な私の作品が完成した時の喜びと満足感、何ものにもかげがえのないものです。まだまだ墨の濃淡による微妙な表現が、思うように出来ませんが、いいお友だちに恵まれ、楽しく描き続けたいと願っています。



八女市本町
佐藤 美代子

高齢者大学の水墨画展を見学した折、皆さんの見事な作品に魅せられて、絵筆を握つたこと

つなぎ合わせの古裂

一月号の「花と古器」に書いておりました興味のあるものの一つに古裂があります。幼少の頃から祖母や母の裁縫をしている姿を見て、私も見よう見まねで裁縫を始めました。人形の服や袋を作ったりミシンをかけてみたり。昔から色々な布を集めてきましたが、ここ数年は更紗にも興味があり古民芸店に行つては小さな古裂を買つたりしています。昔の古裂の色使いや柄には独特なものがあり、デザイン性から見ると昔のものの方が、お洒落で、手がこんでいる様に思います。今のように機械で作るのではなく、糸糸手織りで作られ、色々な型紙や天然の染料で作られている古裂を見ると当時の人の思いが感じられます。古器の敷物として新しい布を敷いてもしっくりこず、極く小さな小さな、18世紀のインド更紗や100年位前のヨーロッパ更紗、和更紗等を韓国のポシャギ風に縫い合わせて作ったものと合わせてみたところ、幕末頃の白磁の伊万里壺と古裂の時代感が合っているのでしょうか、大変しっくりとなりました。日本では室町時代以降中国との貿易により高級染織品が輸入されました。(例外として奈良、平安時代シルクロードの終着点として中国より極めて少量の古代裂が正倉院に塵と呼ばれて保管されています。)当時の日本では更紗は貴重品として、茶道具を包む仕覆等に利用されたそうです。まだまだ勉強中ではありますが、私も更に良い古器(壺や茶碗、皿等)や古裂を集め、野の花を生けたり、お抹茶をいただいたりしながら静かな雰囲気を楽しみたいと思います。 服部 ゆみ子



今月の田中店長
おすすめコーナー



JAふくおか八女
農産物直売所
「よらん野」

筑後市前津503-1
☎0942-54-7755
営業時間
9:00～18:00

JAふくおか八女の新鮮食材を品揃えし、生産者と共に
スタッフ一同心より感謝を込め、
皆様のご来店をお待ち申し上げます。



いちご



タケノコ



トマト



なす